
巻 頭 言

本学会の機関誌『パーソナルファイナンス研究』（No. 7）をお届けします。

今年は何といてもコロナに明け暮れた1年でした。コロナはパーソナルファイナンスの世界にも大きな影響を及ぼしています。クレジットカードのショッピングとキャッシングの月間取扱高で見ても、ショッピングが回復基調にあるのに対して、キャッシングの回復が遅れています。ショッピングでも、マンスリークリアと比べると、リボ・分割の落ち込みが大きくなっています。他方で、コロナにより、非対面、非接触、キャッシュレス、カードレスがますます求められるようになっていきます。そのためには、ICTやAIの活用が不可欠となっています。

本号では、査読付き論文として「中国のパーソナルファイナンスにおける人工知能（AI）の活用」と「中国 P2P ネット金融はなぜ倒産ラッシュに追い込まれたか」の2編、招待論文として「新型コロナ禍における違法性のある融資取引に関する実態調査」の1編を掲載しています。

これらの論文は、主に本学会の昨年度の全国大会での統一論題および特別講演をベースにしたものです。昨年の全国大会が開かれた11月30日-12月1日にはまだコロナは問題とはなっていませんでしたが、コロナ禍からの回復が最も早く、パーソナルファイナンスにおけるAIの活用が世界で最も進んでいて、法制度の面でも実験場となっている中国についての質の高い論文はwithコロナ時代のパーソナルファイナンスを考える上でも大変貴重なものといえます。なお招待論文については、特別講演の内容を大幅に修正してもらい、コロナ禍における違法金融についてより直接的に考察してもらっています。

なお、本機関誌では、全国大会での研究報告にこだわらず、平素の研究活動の成果を積極的に寄稿していただければと考えています。特にコロナ禍で対面での全国大会の実施が難しい中、会員の皆様のいっそうの寄稿をお願いする次第であります。

2020年12月

パーソナルファイナンス学会
会長 坂野友昭